

1 本年度の学校評価をふりかえって

今年度も「ともに語ろう、ともに歩こう」を合い言葉に、豊かな心とたくましさを育む教育活動、学力向上に向けた指導の充実、互いに心が通い合う学級づくり・集団づくりの推進、地域に開かれた学校運営の4つを柱として、学校教育目標の具現化を目指し、自己肯定感を高める教育活動の工夫改善に努めてきた。道徳教育を重点に行ってきた、協働して学ぶ問題解決型の学習への取組が、様々な教科に波及し、個々の考えを大事にしながら話し合いを通して思考を深める子どもの姿となっている。今後も保護者や地域の理解と協力を得ながら、教職員の協働体制の下、よりよい学校教育活動を進めていきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	豊かな心とたくましさを育む教育活動の充実	・互いに心を開いて話し合い、協働して取り組む子どもを目指し教育活動を進めた。体験的な活動や感動体験、道徳教育など、共感的な人間関係づくりに努め、互いの立場を理解し思いやる心が育ってきている。今後も「自分が好き」と思い、自己肯定感を育てる取組に力を入れたい。	B	・たくましさにつながる自己肯定感を育てられるよう、家庭や地域社会と連携しながら個々のよさを認め伸ばす機会をつくり指導に当たるとともに、道徳教育やキャリア教育の一層の工夫改善に努める。	・「ともに語ろう ともに歩こう」の合い言葉が子どもの心に溶け込んでいる。学校でも家庭でも地域でも、明るく素直な気持ちで過ごしている様子が普段からよく見られる。
	学力向上に向けた指導の充実	・道徳での問題解決型の学習を他教科でも取り入れ継続指導した。関連付け、比較検討し、相互に議論する授業を通し、話し合う力の伸びと子どもの思考の深まりが見られる。 ・基本的学習習慣の定着と併せて、週テスト等の日常的取組を全校で行った。個に応じた指導を行い、学習の基盤となる基本的な力を付けている。	A	・さらに主体的で協働的に学ぶ力の向上を目指し、問題解決型の学習を日常化していく。また、考えを書き表す力の向上にも取り組んでいく。 ・ノート指導、学び直し、家庭学習等の継続的な取組で、今後も基礎的・基本的な力の定着を進める。	・全国学力・学習状況調査の結果における全国トップレベルの結果は、学校の優れた指導内容と指導者の熱意が継続、集積している現れである。学校での学習や、家庭の学習に取り組む学校の環境づくりにも努力を感じる。
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	・学年や学校全体での連携と情報共有、チームでの対応、関係機関との連携により、いじめの未然防止や早期発見、早期対応の充実に努めた。	B	・子どもに寄り添い「いじめは常に起こり得る」意識をもち、いじめ等の未然防止、早期発見、即時対応に努める。	・いじめ等の無いように子どもの気持ちを育て、これからの防止への取り組みを進めてほしい。
	互いに心が通い合う学級づくり・集団づくりの推進	・自分の存在感を感じ、自己肯定感を高めるよう、個々の活躍が認め褒められる場や互いを認め合う場づくりを学級や学年で工夫して取り組んだ。 ・ふれあい清掃やふれあい活動を取り入れ、異学年交流の日常的な広がりを図った。	B	・学級や学年の活動、異学年交流等を通じた個々の活躍の場づくりを継続するとともに、個性を發揮し自分への自信と将来への夢をもてるよう、取組の工夫を図る。	・学校行事等で来校する際に、元気に挨拶をし、互いに声を掛け合い助け合う姿を見て、仲間意識や集団の一員としての意識が醸成されていると感じる。
家庭・地域との連携	家庭や地域社会との連携を重視した教育活動の展開	・地区の特色（自然や産業や歴史）を各教科の学習で調べ実際に体験して学び、外部講師を始め多くの地域の方と触れ合う中で、御所野のよさを感じ、誇りに思う気持ちを育てている。 ・学校報や学校行事、学級担任から保護者への日常的な連絡等を通して、学校経営の基本的考えと教育活動について具体的な理解を図るよう努めた。	B	・地域の教材・人材を年間指導計画へ計画的系統的に取り入れ、新たな教材開発を行い、地域で学ぶ機会や体験の充実を図る。 ・学校行事や地域との合同行事、交通指導、見守り活動、防災活動等、家庭や地域社会との連携強化に努める。 ・PTAの持ち方を工夫し家庭との連携を推進する。	・学校が地域行事（地区夏祭り、敬老祝賀会、世代間交流行事など）へ積極的に連携しており、子どもたちがよく参加している。休日の行事もある中、先生は快く顔を出してくれている。教職員の負担軽減も工夫しながら、これからの連携を続けてほしい。
学校間連携	地域の幼稚園や保育園、中学校との校種間連携の推進	・校種間の一層の連携を図り、御所野地域の子どもの成長を連続的に支援する協力体制の強化に努めた。 ・小中の子どもの交流を図る企画（あいさつ運動と小中交流活動）を新たに加え、内容の充実を図った。 ・小中教職員の定期的な情報交換で学習と生活の両面から義務教育9年間を見通した指導計画の見直しと改善、継続実践に努めた。	A	・学院中学校とより密接な情報交換と連携を図り、小中でのよさと課題を共通認識しながら、子どもたちが進学への希望と目標をもてるよう取り組む。 ・小中で連続性のある学校教育活動を推進できるよう、学習や生活に関する共通指導計画は今後も改善を図る。	・学院吹奏楽部の演奏や園児の体験入学、6年生の学院中体験入学など、御所野幼稚園、ごしょの保育園、学院中学校・高等学校が校種間連携に積極的に取り組んでいる。更に、小中合同での挨拶運動も行われ、交流の幅も広がっている。今後も、子どもの育ちを校種間で引き継ぎながら、一体となって連携してほしい。